スーパーグローバル大学創成支援事業　令和６年度事後評価結果表

大 学 名	筑波大学
整理番号	A03
構 想 名	トランスボーダー大学がひらく高等教育と世界の未来

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） A	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。

（コメント）

事業期間全体において、教育研究のトランスボーダー化を加速する地球規模の教育研究環境整備（Campus-in-Campus（以下、「CiC」という。））を核として、教育力強化、研究力強化及びガバナンス改革等を通じて、大学の国際化を推進しており、建学の理念にある「開かれた大学」から「我が国の高等教育と社会を世界に開き、率先して世界の未来を拓く大学」への跳躍へと繋げたものとなっている。

その方策においても、構想の核となるCiC実現のために４つの効果的な施策が実施されており、中でも、「科目ジュークボックスシステムによる海外パートナー大学との協働教育の展開」においては科目登録数にて、最終事業年度目標の４倍程度に達しており、評価に値する。さらに貴学においては、世界の高等教育のトレンドより今後の大学の国際化戦略で重要となる点を的確に分析し、マレーシアに海外分校を開校する足掛かりになったことや、オールジャパンで教育コンテンツを世界に発信するオンラインプラットフォーム（JV-Campus）開発を主導し、リーダーシップをもって展開していることなども高く評価できる。さらに、「外国語のみで卒業できるコース数・在籍者数」、「シラバスの英語化」といった中間評価の際に指摘された事項においても改善が見られ、大方目標が達成されている。

しかしながら、本事業のタイプＡの目指していたところでもある、世界大学ランキングトップ100というところにおいては、部分的な評価は得られているものの総合的なポジションの向上に至っておらず、さらなる要因分析と社会への説明が求められる。研究・教育の総合的分野において世界的な地位向上のために何をなすべきか、明確なロードマップを提示すべきである。そのためには、本事業の成果指標における、教員の多様性、日本人学生の留学経験といった、いくつかの数値目標を大きく下回っている未達項目について、改善を図っていただきたい。

最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。